

5. 今月のトピックス「イチゴ・ハダニ類」について

三重県でのイチゴのハダニ類は、年によって発生の多少はあるものの、毎年発生が見られます。近年では薬剤感受性の低下が認められるので、防除が難しく、密度が低いうちに対策が必要な害虫です。

イチゴでは、ナミハダニ黄緑型とカンザワハダニが発生しますが、現在ではナミハダニ黄緑型の発生が増加しています。

ハダニの寄生株率は、過去10年間の調査結果と2014年調査結果から9月以降に増加する傾向が見られています。(図1)

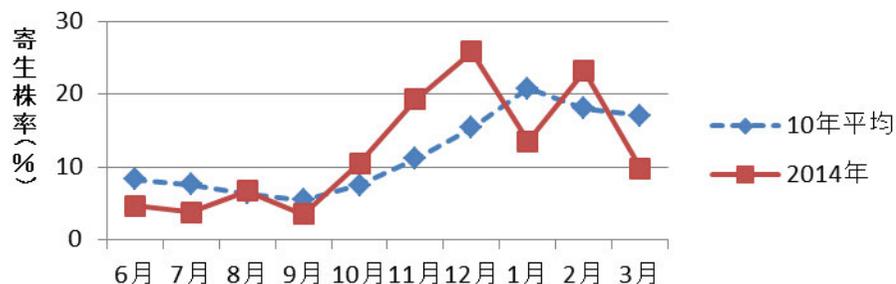


図1 イチゴに寄生するハダニ類の寄生株率の推移

◆生態◆

- ・体長は0.5mm程度と非常に小さく、葉裏に寄生するため発見が難しく、幅広い作物に寄生し、吸汁加害します(写真1)。
- ・施設内では周年発生します。
- ・生育適温は18~28℃です。気温が25℃の場合、7日間で卵から成虫になります。
- ・1頭の雌成虫は100個程度の卵を産卵し、短期間で急激に増殖します。

◆被害の様子◆

- ・発生初期は、下葉から現れ、葉がこわばったように見えてきます。
- ・多発すると新展開葉はわい化して、大きな減収要因となります(写真2)。
- ・株がハダニの吐き出す糸で覆われるようになると、枯死することもあります。
- ・果実に寄生すると着色不良となり、商品価値がなくなります。



写真1 ナミハダニ(黄緑型)



写真2 ハダニ多発時の被害葉

(写真1,2: 三重県農業研究所提供)

◆防除対策◆

- (1) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。
- (2) 除去した下葉(特に被害葉)に寄生していることがあるので、施設外に持ち出し、処分してください。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を避けるには天敵の導入や気門封鎖型の薬剤も有効です。
- (5) 天敵を導入する場合は、薬剤防除(天敵に影響の少ない剤)で密度を下げた後に導入してください。
- (6) 気門封鎖剤は天敵への影響を考慮し、導入直後の使用は避けてください。
- (7) 薬剤散布にあたっては、ミツバチや天敵に対する影響に十分注意してください。
- (8) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。